

# 平成28年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は平成28年秋期の取引動向の概要について紹介します。

## 1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

今期の全体取引量は約12.5万本で、前年同期（約11.0万本）より約1.5万本増加しました。

一般植木は対前年同期比94.3%、生垣用樹は96.3%と減少しましたが、株・玉物は133.7%と大きく増加し、全体では113.6%となりました。

全体取引量は、平成20年に増加に転じた後、21年以降は減少傾向が続いていましたが、株・玉物の増加が全体量を押し上げ、今期の全体取引量は大幅な増加に転じました。

## 2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

### (1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約2.0万本で、前年同期（約2.1万本）より約0.1万本減少しました。

自然形では、安定した取引が続いていたカエデ類が、従来の記録を更新するほど大きく増加しましたが、前年に増加したカシ類は大きく減少し、キンモクセイも減少傾向が続いています。

仕立物では、大半を占めるイヌツゲとイヌマキが大きく減少、特にイヌツゲは半減し、全体量を押し下げました。

### (2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約7.0万本で、前年同期（約5.2万本）より約1.8万本増加しました。

サツキが大きく増加し、減少傾向が続いていたイヌツゲも増加に転じて、全体量を押し上げました。

### (3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約3.6万本で、前年同期（約3.7万本）より約0.1万本減少しました。

生垣用樹の大半を占めるサザンカとイヌマキが、わずかに減少したため全体量もわずかな減少となりました。

## 3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引量上位10品目では、大きく増加したサツキが1位を維持し、同じく大きく増加したオタフクナンテンが順位を上げました。

昨年大きく減少して上位10品目から外れたハナミズキがヤマボウシに変わって再び咲き、大きく減少したキンモクセイが外れて、大きく増加したドウダンツツジが加わりました。

### \* 調査市場 \*

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市斉藤町）

図-1 秋期取引量の推移 (単位:万本)

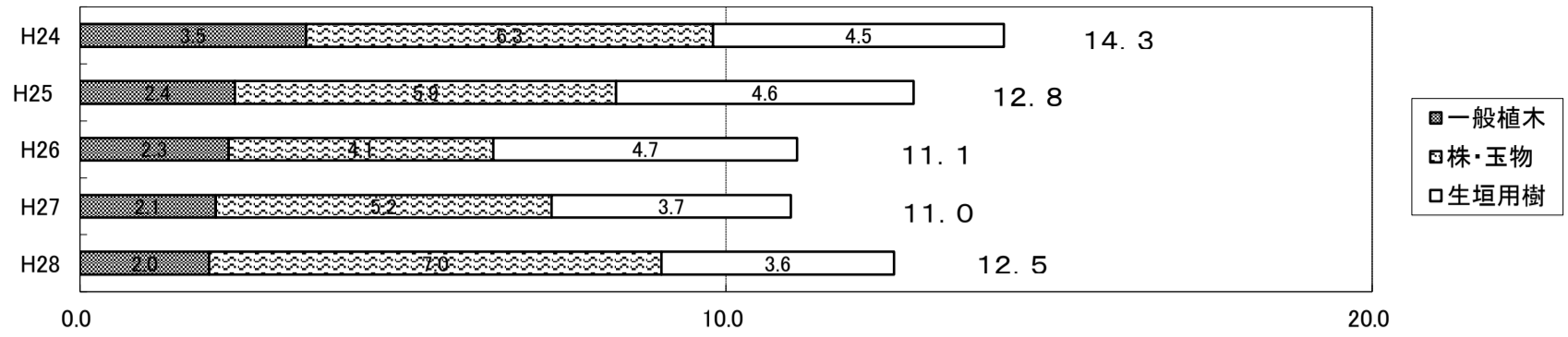


図-2 秋期取引量の区分別構成比 (%)

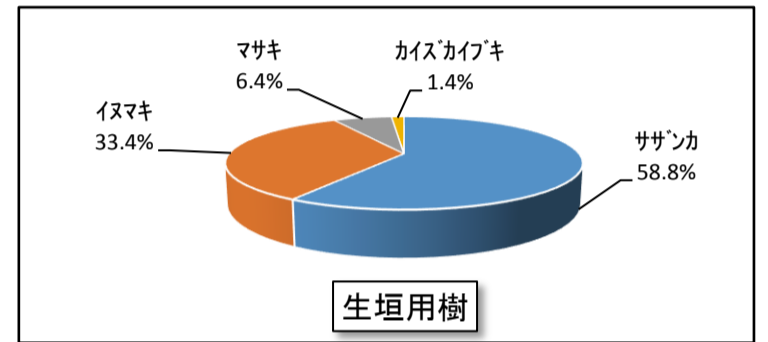
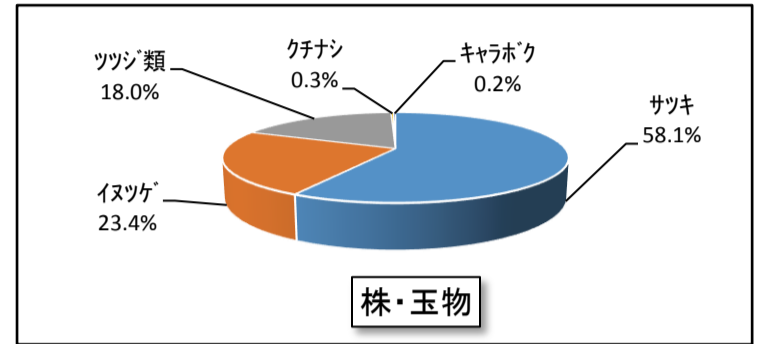
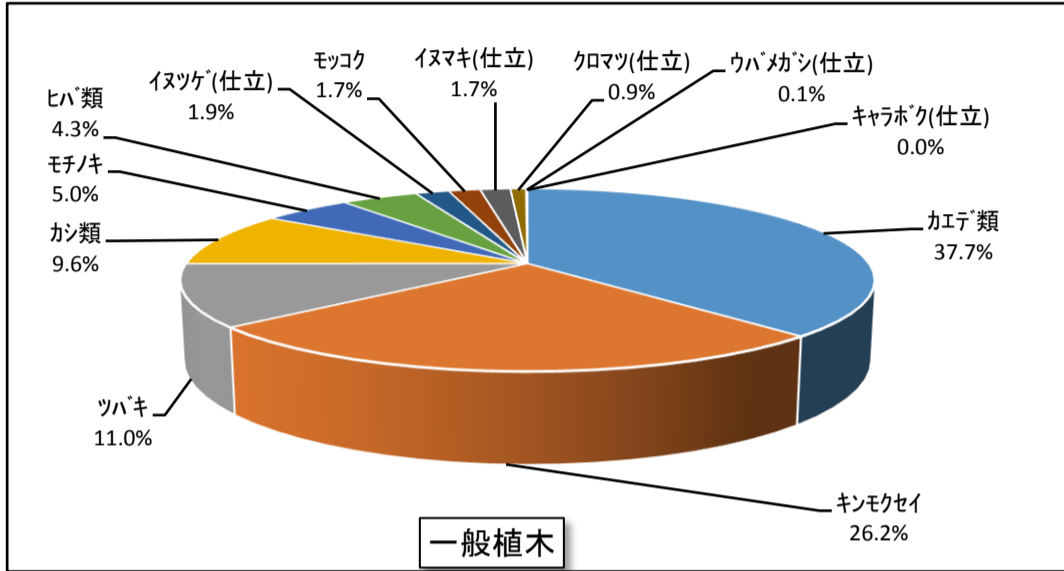


図-3 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比 (%)

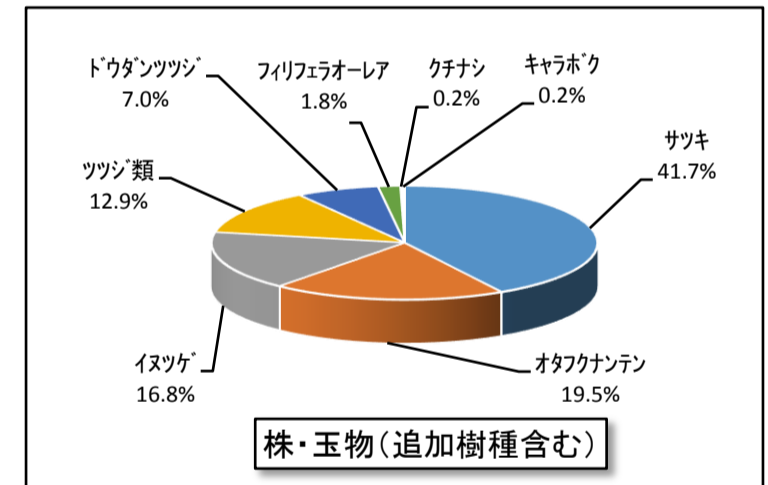
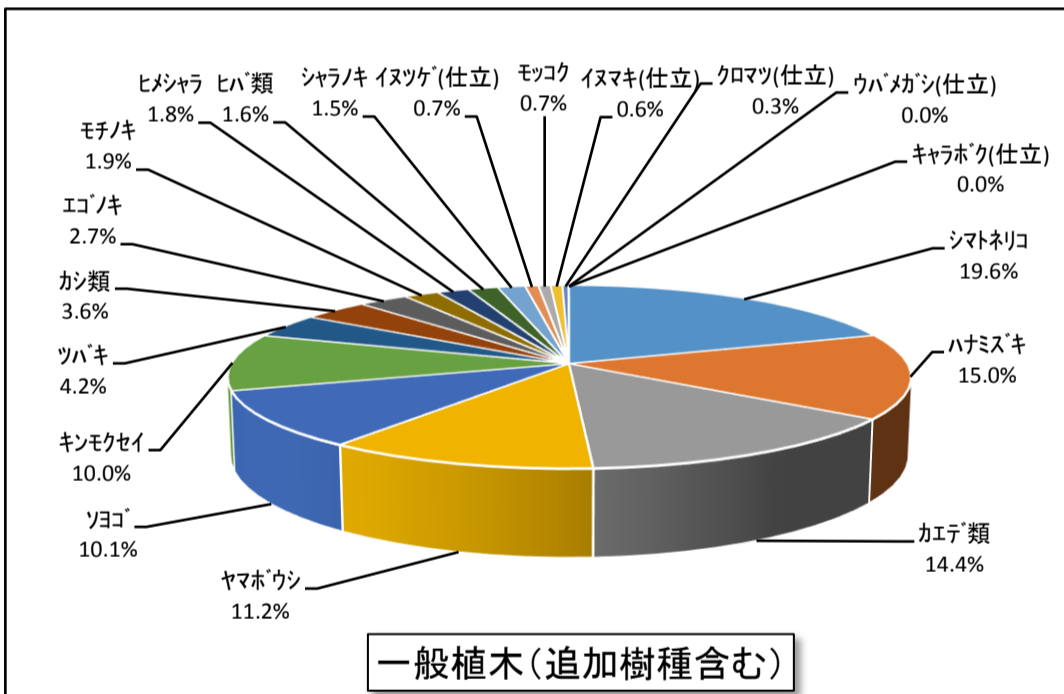


表-1 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成26年			平成27年			平成28年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サザンカ	生	...	サツキ	株	↗	サツキ	株	↑
2	イヌツゲ	株	...	サザンカ	生	↘	サザンカ	生	...
3	サツキ	株	↓	イヌツゲ	株	...	オタフクナンテン	株	↑
4	イヌマキ	生	...	ツツジ類	株	↑	イヌツゲ	株	...
5	シマトネリコ	—	↘	イヌマキ	生	...	ツツジ類	株	...
6	オタフクナンテン	株	↘	オタフクナンテン	株	↑	イヌマキ	生	...
7	ハナミズキ	—	↑	シマトネリコ	—	...	シマトネリコ	—	...
8	キンモクセイ	—	...	ヤマボウシ	—	↑	ハナミズキ	—	↑
9	ドウダンツツジ	株	...	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	↗
10	ツツジ類	株	↑	カエデ類	—	...	ドウダンツツジ	株	↗

・前期比単位    ...: ±20%未満    ↗: +20%以上40%未満    ↘: -20%以上40%未満  
 ↑: +40%以上    ↓: -40%以上    —: データなし  
 ・区分    —: 一般植木    株: 株・玉物    生: 生垣用樹